

H8, H8S, およびH8SXファミリ C/C++コンパイラパッケージ V.6.01 Release 01へのリビジョンアップのお知らせ

H8, H8S, および H8SX ファミリ用C/C++コンパイラパッケージを V.6.01 Release 00からV.6.01 Release 01にリビジョンアップしました。

1. リビジョンアップ対象製品

H8, H8S, およびH8SXファミリC/C++コンパイラパッケージ V.6

製品型名 :

Windows版	R0C40008XSW06R
Solaris版	R0C40008XSS06R
HP-UX版	R0C40008XSH06R

2. リビジョンアップ内容

2.1 新機能および機能改善

2.1.1 High-performance Embedded

Workshop (Windows版のみ)

統合開発環境High-performance Embedded WorkshopをV.4.00.02へリビジョンアップしました。

詳細は、2005年7月1日発行RENESAS TOOL NEWS 「統合開発環境 High-performance Embedded Workshop V.4.00.02 へのリビジョンアップのお知らせ」 (RSO-HEW-050701D) を参照ください。

2.1.2 シミュレータ (Windows版のみ)

タイマシミュレーション機能をI/O DLLとしてシミュレータ本体から分離 しました。

2.2 改修内容

2.1.1 インストーラ (Windows版のみ)

環境変数設定用バッチファイルに関する問題を改修しました。

問題の詳細は、2005年3月16日発行RENESAS TOOL NEWS 「SuperH RISC engine, H8, H8S, および H8SXファミリC/C++コンパイラパッケージ (Windows版) ご使用上のお願い」 (RSO-SHC_1-050316D) を参照ください。

2.1.2 シミュレータ (Windows版のみ)

- (1) SuperH RISC engine ファミリ シミュレータ・デバッガおよび H8, H8S, H8SX ファミリ シミュレータ・デバッガを同一環境で使用する 場合の問題を改修しました。
詳細は、2005年3月16日発行のRENESAS TOOL NEWS 「SuperH RISC engine ファミリ および H8, H8S, H8SX ファミリ シミュレータ・デバッガ ご使用上のお願い」 (RSO-SHC_2-050316D) を参照してください。
- (2) メモリリソースの設定に関する問題を改修しました。
詳細は、2005年4月16日発行のRENESAS TOOL NEWS 「SuperH RISC engine および H8S, H8/300シリーズ シミュレータ・デバッガご使用上のお願い -- メモリリソースの設定について --」 (RSO-SH-SIM-050416D) を参照してください。
- (3) システムコントロールレジスタ(SYSOCR)へアクセスする場合の問題を 改修しました。
詳細は、2005年4月16日発行のRENESAS TOOL NEWS 「H8S, H8/300シリーズ シミュレータ・デバッガご使用上のお願い-- システムコントロール レジスタ(SYSOCR)アクセスについて --」 (RSO-H8SX-SIM-050416D) を参照してください。
- (4) トレースレコードを検索する場合の問題を改修しました。
詳細は、2005年4月16日発行のRENESAS TOOL NEWS 「H8S, H8/300シリーズ シ

ミュレータ・デバッガ ご使用上のお願い--
トレースレコード検索について--」(RSO-
H8S-SIM-050416D) を参照してくださ
い。

2.1.3 コンパイラ

- (1) 2005年7月16日発行RENESAS TOOL NEWS 「H8SX, H8S およびH8ファミリ C/C++コンパイラパッケージ V.6 ご使用上のお願い」(RSO-H8C-050716D) で報告した8点の問題を改修しました。
- (2) 2005年8月1日発行RENESAS TOOL NEWS 「H8SX, H8S およびH8ファミリ C/C++コンパイラパッケージ V.6ご使用上のお願い」(RSO-H8C-050801D) で報告した1点の問題を改修しました。
- (3) 以下の項目について改修しました。
 - コンパイラが出力するデバッグ情報が誤っているために、デバッガ上で共用体型変数および変数を割り付けたレジスタの情報が正しく表示されない不具合を改修しました。
 - C2190, C2240, C4712, および C2238のエラーを誤って出力する不具合を改修しました。
 - 出力されるべきエラーC2311が出力されない不具合を改修しました。
 - コンパイラが出力したアセンブリプログラムをアセンブルした際に、アセンブルエラー (W)835 または (E)526 が出力されることがある不具合を改修しました。

2.1.4 最適化リンケージエディタ optlnk (以降、リンカと略します)

- (1) リンカが生成するリンケージリストファイルに関する問題を改修しました。
詳細は2005年4月16日発行のRENESAS TOOL NEWS "SuperH RISC engine, H8, H8S, およびH8SX ファミリ用 最適化リンケージエディタ ご使用上のお願い" (資料番号: RSO-SHC-050416D)を参照してください。

(2) 以下のエラー L0103が誤って出力される問題を改修しました。

** L0103 (I) Multiple stack sizes specified to the symbol "関数名"

問題の発生条件：

以下の条件をすべて満たす場合に発生することがあります。

1. リンカのバージョンが V.9.00.00 以降である(*)。
2. C/C++ソースファイルで定義した関数と同じ名前の変数 (extern修飾子 付き) が別のC/C++ソースファイルに存在する。もしくは、「_<関数名>」というimportラベルがアセンブリソースファイルに存在する。
3. リンク時にmessageオプションを使用している。
4. リンク時にstackオプションを使用している。

(3) 誤ったスタック情報ファイル (.sni)を生成する問題を改修しました。

問題の発生条件：

以下の条件をすべて満たす場合に発生することがあります。

1. リンカのバージョンが V.9.00.00 以降である(*)。
2. C/C++ソースファイルで定義した関数と同じ名前の変数 (extern修飾子 付き) が別のC/C++ソースファイルに存在する。もしくは、「_<関数名>」というimportラベルがアセンブリソースファイルに存在する。
3. リンク時にstackオプションを使用している。

注意： 該当の.sniファイルを、スタック解析ツール (Call Walker)に 入力すると、誤ったスタック使用量が表示されます。

(4) 未参照シンボル削除の最適化 (optimize=symbol_delete)によって、誤っ

たオブジェクトコードが生成されることがある問題を改修しました。

問題の発生条件：

以下の条件をすべて満たす場合に発生することがあります。

1. リンカのバージョンが V.9.00.00 以降である(*)。
2. コンパイル時にgoptimizeオプションを選択している。
3. コンパイル時にpack=1オプションを選択している。もしくは、C/C++ソースファイル中に「#pragma pack 1」を記述している。
4. リンカの未参照シンボル削除の最適化が有効になっている。
以下のいずれかの場合に有効になります。
 - optimize=symbol_deleteオプションを使用している
 - optimize=speedオプションを使用している
 - optimizeオプションを使用している
 - nooptimizeオプションを使用していない
5. 4項の最適化によって、定数(const修飾子付き変数)、および初期値付き変数が削除される。

- (5) デバッグ情報圧縮機能(compressオプション)を使用すると、誤ったデバッグ情報を生成する問題を改修しました。

問題の発生条件：

以下の条件をすべて満たす場合に発生することがあります。

1. リンカのバージョンが V.7.0 以降である(*)。
2. コンパイル時にdebugオプションを選択している。
3. リンカでcompressオプションを使用して、リロケータブルファイル(.rel)を生成している。
4. 3項の.relファイルをリンカに入力し、compressオプションを使用して

ロードモジュールを生成している。

注意： 該当のロードモジュールをデバッガにロードすると誤った 内容を表示します。

- (6) 下記のいずれかの条件に該当する場合、内部エラーが発生する場合があります問題を改修しました。
- アセンブリソース記述の.EQUシンボルを含んだ.relファイルを リンカに入力している。(発生する内部エラー：L4000-8010)
 - .EQUシンボルを呼び出す関数コールを持つオブジェクトファイルを リンカに入力している。(発生する内部エラー：L4000-8874)
 - .relファイルをリンカに入力している。(発生する内部エラー：L4000-8027 または L4001)

* リンカのバージョンの確認方法

- (1) 統合開発環境High-performance Embedded Workshopのメニュー「ツール」->「アドミニストレーション」を選択する。
- (2) 開いたツールアドミニストレーションダイアログボックスの「登録済コンポーネント」リストのツリー表示「Toolchains」の中から 使用中のコンパイラパッケージを選択し、プロパティボタンをクリックする。
- (3) 表示されたプロパティダイアログボックスの情報タブを選択すると リンカのバージョンが表示される。
表示例： Optimizing Linkage Editor (V.9.00.02)

3. リビジョンアップと購入方法

3.1 リビジョンアップ（無償）

該当製品をお持ちの場合、無償でリビジョンアップできます。

- (1) Windows版: R0C40008XSW06Rの場合
オンラインでリビジョンアップできます。
こちらからダウンロードしてください。（9月上旬から公開予定）

- (2) R0C40008XSS06R(Solaris版) および R0C40008XSH06R(HP-UX版)の場合
以下の情報を最寄りのルネサス販売または特約店までご連絡ください。
最新版の製品パッケージを送付いたします。

製品型名	Solaris版: R0C40008XSS06R HP-UX版: R0C40008XSH06R
バージョン番号	V.6.01
リリース番号	Release 01

3.2 新規購入

ご注文の際には、以下の情報を最寄りのルネサス販売または特約店までご連絡ください。

製品型名	Windows版: R0C40008XSW06R Solaris版: R0C40008XSS06R HP-UX版: R0C40008XSH06R
バージョン番号	V.6.01
リリース番号	Release 01

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。